

令和8年度 第1回 史跡元寇防塁（箱崎地区）整備活用検討会

会 議 次 第

日時：令和8年8月10日（月）
午前10時～12時

場所：福岡市博物館
2階多目的研修室

1. 開会

2. 事務局挨拶

3. 委員、出席者紹介（資料1-①・②）

4. 協議事項

（1）広場の設計について（資料2）

（2）展示の設計について（資料3）

5. 閉会

資料1 - ① 史跡元寇防塁（箱崎地区）整備活用検討会 委員名簿

- ② 令和8年度 第1回 史跡元寇防塁（箱崎地区）整備活用検討会 出席者名簿
- ③ 令和8年度 第1回 史跡元寇防塁（箱崎地区）整備活用検討会 座席表
- ④ 史跡元寇防塁（箱崎地区）整備活用検討会設置要綱

資料2 広場の設計について

資料3 展示の設計について

参 考 令和8年2月議会 経済振興委員会報告資料「史跡の整備について」（抜粋）

氏 名	役職名
千 相哲	九州産業大学 副学長 九州産業大学 教授（地域共創学部）
田尻 義了	九州大学アジア埋蔵文化財研究センター センター長 九州大学大学院 教授（比較社会文化研究院）
中村 直人	九州大学大学院 准教授（芸術工学研究院）
堀 賀貴	九州大学総合研究博物館 館長 九州大学大学院 教授（人間環境学研究院）

※五十音順

〔委 員〕

九州産業大学 副学長	千 相哲
九州大学アジア埋蔵文化財研究センター センター長	田尻 義了
九州大学大学院 准教授	中村 直人
九州大学総合研究博物館 館長	堀 賀貴

〔オブザーバー〕

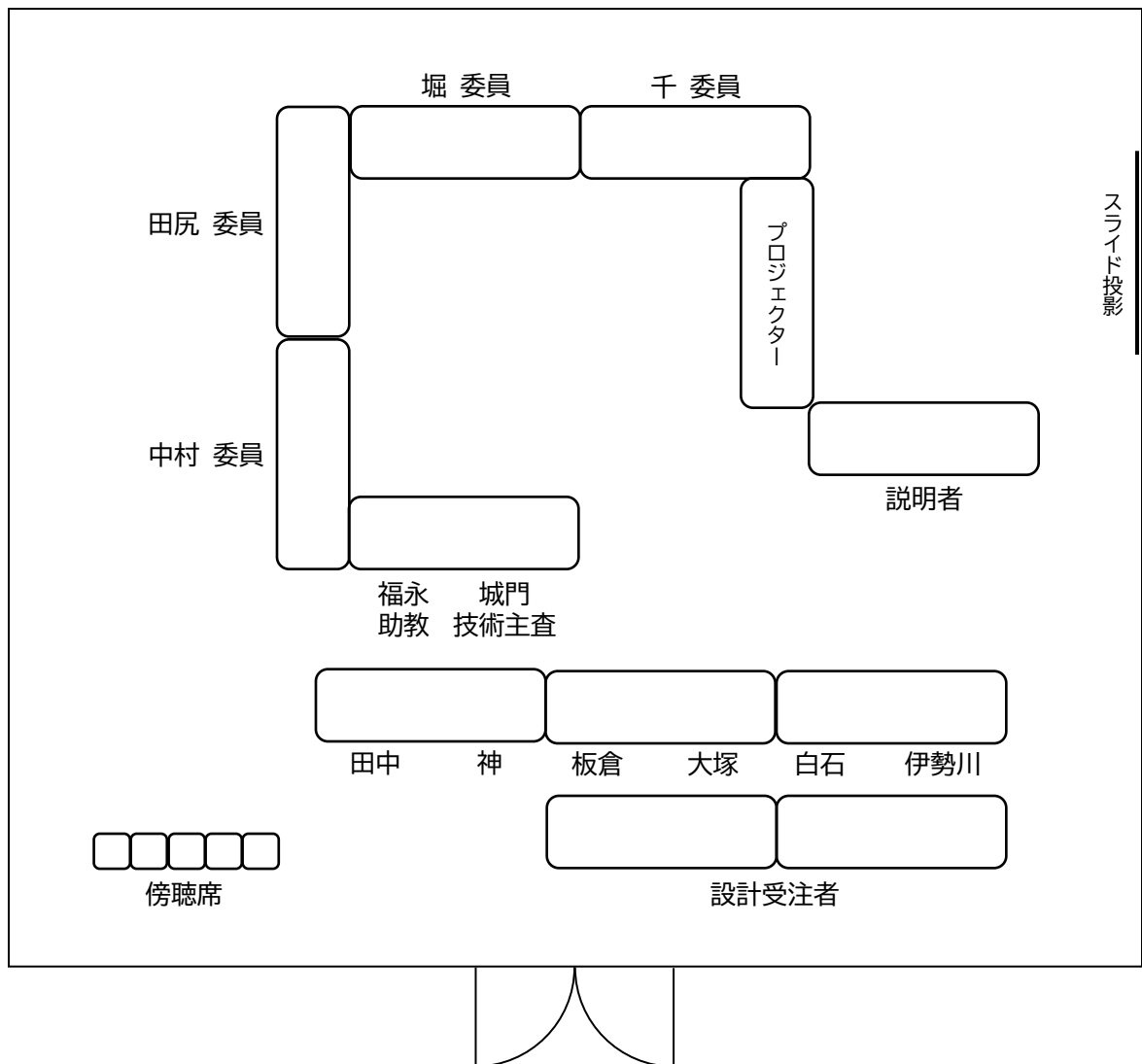
九州大学総合研究博物館 助教	福永 将大
----------------	-------

〔福岡県〕

福岡県教育庁文化財保護課 技術主査	城門 義廣
-------------------	-------

〔事務局〕

福岡市経済観光文化局	
理事	伊勢川 幸満
文化財活用部 部長	白石 将俊
史跡整備活用課 課長	大塚 紀宜
史跡整備活用課 係長	板倉 有大
史跡整備活用課	神 啓崇
史跡整備活用課	田中 朱璃



（設置）

第1条 九州大学箱崎キャンパス跡地の新しいまちづくりと調和する史跡元寇防塁の整備と公開活用（以下「整備活用」という。）に関する検討を行うにあたり、専門的見地から幅広い意見を聴取するため、史跡元寇防塁（箱崎地区）整備活用検討会（以下「検討会」という。）を設置する。

（協議会の目的）

第2条 検討会では、前条の目的を達成するため、整備活用の手法について委員から意見を収集する。

（委員）

第3条 検討会の委員は、別表に掲げる者とし、福岡市経済観光文化局長が選任する。

（委員の任期）

第4条 委員の任期は、2年とする。

（検討会）

第5条 検討会は、福岡市経済観光文化局長が開催する。

（検討会の議長）

第6条 検討会の議長は事務局の推薦によって選任する。

（守秘義務）

第7条 委員は、その職務に関して知り得た秘密を他に漏らしてはならない。その職を退いた後も、また同様とする。

（情報公開）

第8条 検討会は、公開とする。ただし、検討会が福岡市情報公開条例（平成14年福岡市条例第3号）第38条ただし書の規定に該当するときは、非公開とすることができる。

（補則）

第9条 この要綱に定めるもののほか、検討会に関し必要な事項は、福岡市経済観光文化局長が定める。

附 則

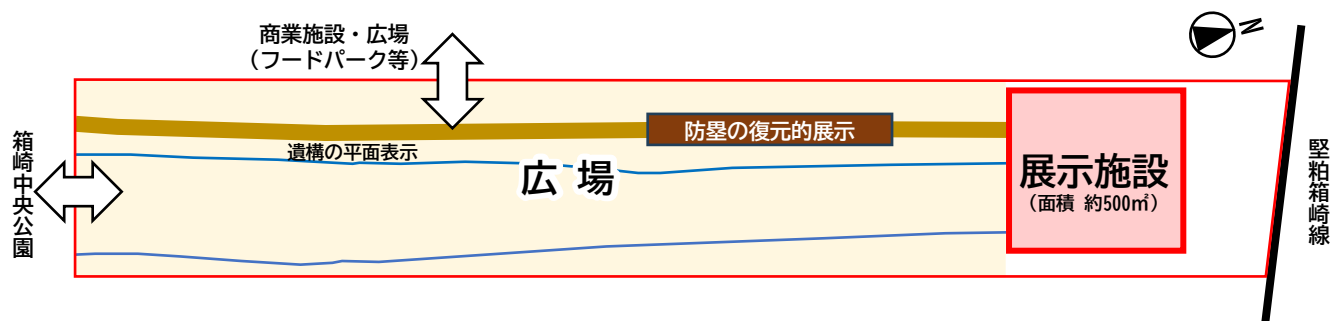
この要綱は、令和7年11月1日から施行する。

広場の具体的な仕様（舗装・植栽・ベンチ等の考え方）

○広場については、箱崎中央公園や商業施設・広場から展示施設に向けて、
現代から中世（鎌倉時代）へと時代を遡るストーリーを空間デザインにより表現する案
 を検討している。

各エリアの活用イメージ

	現代エリア	近世・近代エリア	中世エリア
活用	○箱崎中央公園やフードパークとの連続性を確保し、にぎわいを創出	○かつての箱崎（九大）を体感 ○来訪した人びとがくつろげる憩いの空間	○中世の景観を表現 ○フォトスポット （防塁レプリカとクロマツ）



《参考》まちづくりの検討状況



【凡例】

開業年度(予定)

- R10年度(第1期まちびらき)
- R11年度
- R12年度
- R13～R18年度(まちの概成)

歩の軸

- ↔ R10年度(第1期まちびらき)に併せて供用
- ↔ 周辺施設の整備と併せて供用

※ ファミリー向け共同住宅については、令和10年度以降、南エリアから、年度毎に約250戸ずつ供給(計2,000戸)

令和8年1月の検討会における委員の意見を踏まえて、以下のとおり展示内容を設計しており、その状況について報告する。

① 元寇防塁とは何か？：イントロ映像

- 展示施設の導入として、『蒙古襲来絵詞』等の史料やCGを駆使した映像により、**元寇（モンゴル襲来）と防塁の成立背景などを伝える。**

② 海から望む防塁の迫力：海と防塁の壁面展示

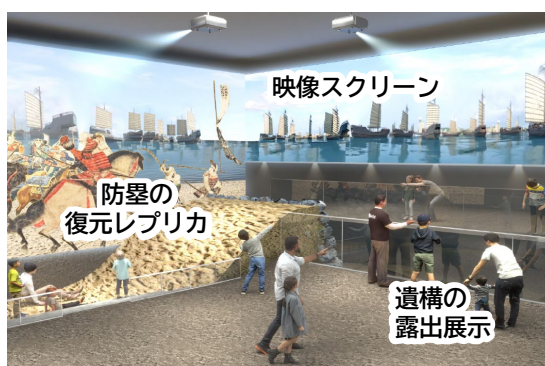
- 展示室内に入り、**海側（モンゴル軍側）からの視点で防塁の長大さを伝える。**

③ 防塁の露出展示・復元レプリカ

- 約750年前の防塁のリアル感を体験できるように**、発掘された状態の防塁を露出展示する。
- 遺構の横に復元レプリカを設置し、防塁の本来の高さや構造を伝える。



海側からみた遺構展示



陸側からみた展示室内

④ モンゴル軍の脅威を体感する：映像スクリーン

- モンゴル軍の大船団CG映像をスクリーンに投影して、襲来の脅威を伝える。**

⑤ 過去から未来へ：映像ルーム

- 過去から未来につながる歴史ストーリーを没入感のある映像で伝える。**
- 元寇ゆかりの地を紹介・案内し、市内の歴史資源や観光地の魅力を伝え、**周遊の促進を図る。**

⑥ 元寇防塁をより楽しく学ぶ・親しむ

- デジタル機器や「触れる展示」を用いて、**情報を分かりやすく伝える。**
- 簡単な体験を通じて、**元寇防塁を身近に感じてもらう。**

デジタル

- ・床の地図にスマホをかざして、関連情報を映像やテキストで取得
- ・液晶画面を用いて、『蒙古襲来絵詞』（前・後巻、全長約44m）を詳しく閲覧

触れる

- ・防塁の地区ごとの構造や石材の違いを模型や実物石材を触って体感
- ・原寸大のスポンジ製石材を用いた石積み体験

着る

- ・当時の甲冑、衣装など（日本・モンゴル）の着装体験
- ・『蒙古襲来絵詞』等身大パネルとの写真撮影

経済振興委員会報告資料

史跡の整備について

令和8年2月
経済観光文化局

2 元寇防塁（箱崎地区）の整備について

九州大学箱崎キャンパス跡地内の元寇防塁(南エリア)の整備・活用について、史跡の保存継承とともに、まちづくりとも調和する歴史資源として磨き上げるための検討を進めている。

■ これまでの検討状況

令和4年3月 整備基本計画 策定

令和4年9月議会

(報告)九州大学箱崎キャンパス跡地のまちづくりにおける経済観光文化局の検討状況について

⇒元寇防塁の整備・活用の基本的な考え方を報告

令和5年6月議会

(報告)史跡元寇防塁箱崎地区の土地取得について

■ 史跡指定地の経緯

平成28～令和3年度 九州大学箱崎キャンパス移転に伴う発掘調査で遺構を確認

令和2年3月

南エリア国史跡指定

令和3年10月

北エリア国史跡指定

令和5年度

南エリア公有化

令和7年度

北エリア公有化予定

(1) 史跡指定地の現況

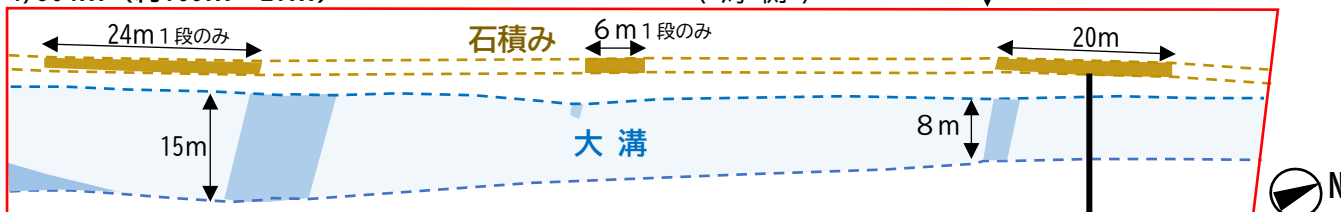
○箱崎地区の元寇防塁は、石積みとその背後に大溝を有することを特徴とする。

○発掘調査で部分的な遺構の残存が確認され、現在は遺構保存のため地下に埋め戻している。

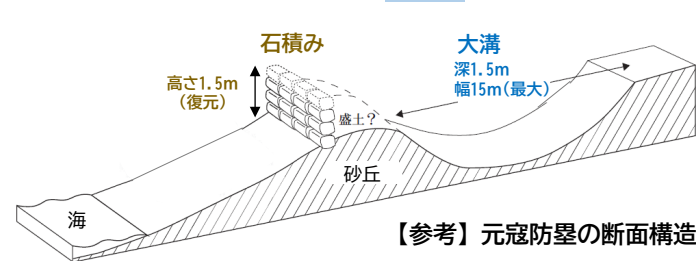


史跡の現況 平面図

4,504㎡ (約160m×27m)



元寇防塁の石積みの残存が確認された範囲 元寇防塁の大溝の残存が確認された範囲

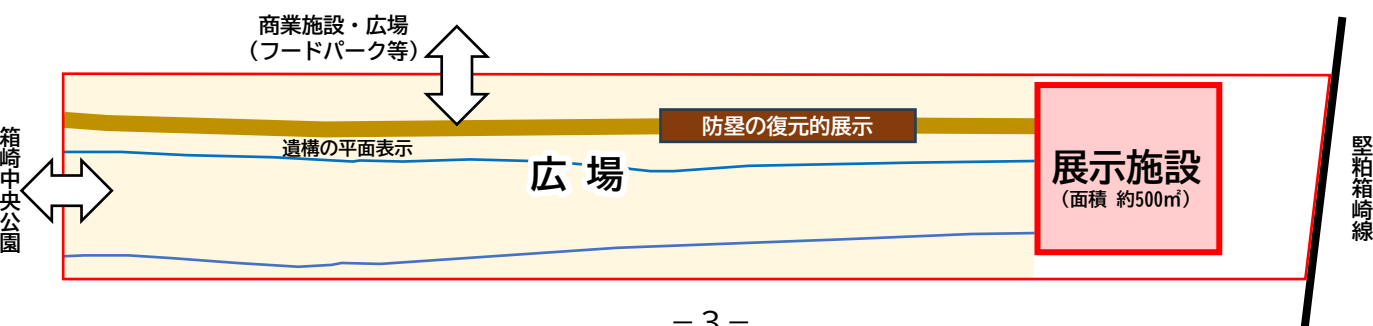


※この範囲のみ石積みが3段残存



(2) 整備の平面イメージ

○中世の景観を伝えつつ、まちと一体感のある、にぎわいや来訪者の憩いの空間を創出する。



(3) 展示施設の検討

箱崎地区の中で、遺構の残存状態が最も良い範囲を覆う、展示施設（約500㎡）での公開と活用の手法を検討。

- 遺構の保存を前提として、史跡のリアリティを伝える、現地ならではの元寇防塁展示。
- 史跡や箱崎エリアへの理解を深める歴史ストーリーについて、没入感を高める映像で発信。
- 子どもが楽しく元寇の歴史を学べる体験展示。
- 市内の元寇防塁等、関連遺産への周遊を促進する拠点づくり。

⇒史跡整備や公開・活用の手法を検討するにあたり、整備活用検討会を設置し、幅広い専門的見地から有識者の意見を聴取して、進めていく。

■ 第1回検討会（令和8年1月7日実施）での主な意見

- ・元寇防塁の全体感と長大さを海側からの視点で伝える展示手法を検討した方がよい。
- ・海に近い立地や、元寇防塁築造以前からの歴史的な流れを伝える映像等が必要ではないか。
- ・箱崎地区や各地区の築造方法の違いについて、体験を通して学べる展示を検討してほしい。

【遺構展示のイメージ】



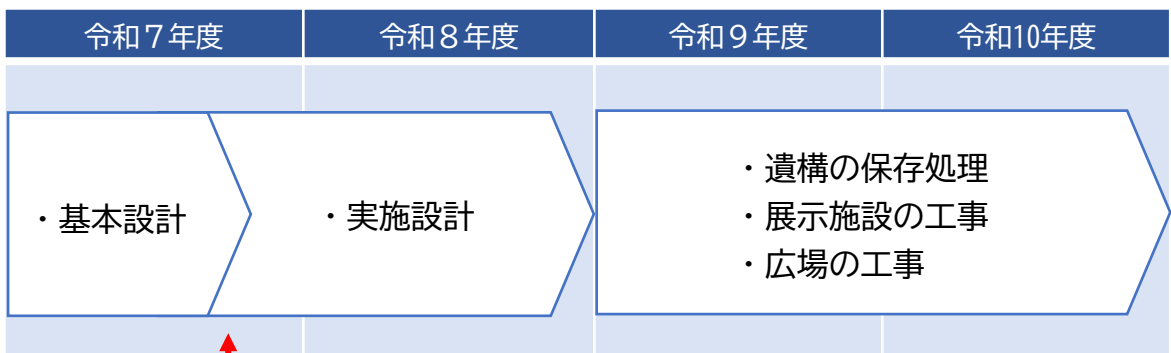
【海側（西）】

石積みみの残存状態が最も良い範囲の露出展示
石積み正面の見学デッキから、発掘された遺構を臨む

【陸側（東）】

攻め寄せる元軍の情景などを映像で再現した演出や、
防塁の構造や高さを復元したレプリカによって、
日本軍の守りを体感

(4) 今後のスケジュール（案）



今回報告

※今後の事業進捗については、地域や九州大学箱崎キャンパス跡地のまちづくり事業者、文化庁と引き続き協議し、適宜議会のご意見を伺いながら検討を進めていく

第 1 回 史跡元寇防塁（箱崎地区）整備活用検討会 議事要旨

■ 展示施設について

①遺構展示

- ・海側からの視点で、石積みの全体感や長大さを伝える展示を検討した方がよい。
- ・防塁をレプリカ等で復元するなら、箱崎地区の調査や研究成果に沿ったものとするべきで、今津地区や生の松原地区とは異なる観点で復元する必要がある。

②映像を活用した理解促進

- ・海が近いことが体感できる映像はインパクトがあってよい。
- ・防塁の築造過程などを、築造前からの時系列に沿った映像で見せたうえで、今ここに残っているのが露出展示する石積み遺構であることを伝える手法を検討した方がよい。
- ・壁面映像のほか、俯瞰や双方向性を高める 3D ゴーグルや、タブレットの利用などが考えられるが、それぞれ長短所があるので、コンテンツの内容やターゲットに応じて手法を検討していくのがよい。

③体験展示など

- ・防塁の地区ごとの築造方法や構造の違いがわかる体験展示があるとよい。築造体験など、能動的なコンテンツが効果的では。
- ・兜の着装体験などは、アナログ手法の方が外国人受けもよく、フォトスポットにもなる。
- ・兜を着けた武将隊などの人が説明する手法もある。ヨーロッパでは、地域ボランティアの活用が多く、地域とのつながりやシビックプライドの醸成にもつながっている。
- ・レプリカを触るだけの展示は効果が薄い。「てつはう」のように、映像を交えて伝えたほうが効果的と考えられるコンテンツもあるのではないかな。

■ その他

- ・箱崎に九州大学があったこと、九州大学総合研究博物館との連携も考えてほしい。
- ・箱崎は東の玄関口になるので、福岡全体が把握でき、これからどこに行けばいいのかというコンテンツを供給すべき。
- ・周遊としては、元寇からみた市域全体、箱崎のマチ、九大跡地内の 3 つのレイヤーがある。まち歩きなどの情報発信も検討してほしい。